

《担当者名》 教授 / 越野 寿koshino@  
 助教 / 菅 悠希kanyuuki@  
 助手 / 最上 真琴makoto\_m@  
 非常勤講師 / 伊東 由紀夫

准教授 / 豊下 祥史toyosita@  
 助教 / 高田 紗理srtakada@

講師 / 川西 克弥kawanisi@  
 助教 / 横関 健治yokozeeki@

## 【概要】

無歯顎補綴治療における実際をマネキンにより行い、講義で得た知識を実践するとともに、臨床操作に必要な材料、器具、器材の基本的な扱い方を学ぶ。

## 【学修目標】

無歯顎補綴診療における一連の基本的診療術式を説明する。  
 無歯顎補綴診療における一連の基本的技工操作を説明する。  
 無歯顎補綴診療における一連の基本的診療術式を実施する。  
 無歯顎補綴診療における一連の基本的技工操作を実施する。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	実習の進めかたについての説明 材料、器具、器材の点検 概形印象採得と個人トレーの製作 示説あり	<u>既製トレー、アルジネート印象材、トレーレジン</u> 全部床義歯製作に必要な材料、器具、器材の取扱い及び実習の進めかたについて理解する。 DR11、無歯顎PCT模型、無歯顎用既製トレーとアルジネート印象材を用いて概形印象採得を行い、印象法について学ぶ。また、モデリングコンパウンドを用いた概形印象採得法についても学ぶ。 概形印象から得られた研究用模型（購入した石膏模型）上で、上下顎の個人トレーを製作し、精密印象について理解する。 E-3-4)-(2)- 、F-3-4)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫
2	精密印象採得 示説あり	<u>個人トレー、トレーコンパウンド、シリコーンラバー印象材</u> 個人トレー、シリコーンラバー印象材を用いて、筋圧形成と精密印象採得を行う。 精密印象への石膏注入は行わないが、上顎印象のみボクシングを行う。 購入した石膏模型を作業用模型とする。 義歯床外形に關与する筋について理解する。 E-3-4)-(2)- 、F-3-4)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫
3	咬合採得 示説あり	<u>咬合床</u> 咬合床を用いて、臨床での処置と同様に、リップサポートを調整する。 仮想咬合平面をカンペル線と両瞳孔間線から決定し、上顎咬合堤を調整する。 下顎安静位法を利用して咬合高径を決定する。 なお、DR11に付着された無歯顎PCT模型の下顎は蝶番運動のみが可能であるため、定められた垂直的顎間関係での上下顎咬合堤接触位が適切な水平的顎間関係であるとする。 これにより、咬合採得の術式と理論を修得する。 また、標準線を記入し、その意義及び前歯部人工歯の選択基準について学ぶ。 E-3-4)-(2)- 、F-3-4)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫
4	咬合器装着 示説あり	<u>咬合器、石膏</u> 上下顎作業用模型を咬合採得の完了した咬合床を介し、スプリットキャスト法を応用して平均値咬合器に装着する。 平均値咬合器についての知識を深める。 半調節性咬合器と平均値咬合器を比較し、差異を説明	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		できる。 E-3-4)-(2)- 、 F-3-4)-	最上 真琴 伊東 由紀夫
5 ) 6	GoA描記装置の製作 示説あり GoA描記と記録床の固定 示説あり	<u>GoA描記装置、スティッキーワックス、石膏、常温重合レジン、パラフィンワックス</u> 上下顎の記録床を製作し、口内法ゴシックアーチ描記装置を取り付ける。 マジックインク、咬合採得用シリコンラバー、印象用ガンの使用方法について学ぶ。 描記装置を用いて、GoA描記を行った後、上下顎記録床を固定する。 ゴシックアーチ、タッピングポイントの評価について図説する。 再装着が必要な場合の説明を行う。水平的顎間関係記録について理解する。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫
7	前歯部人工歯排列 示説あり	<u>人工歯、咬合床</u> 前歯部人工歯排列のための準備を上下顎咬合床に施す。 人工歯の選択基準、形態について理解する。 生体から得られた種々の情報が、咬合床へ如何に組み込まれているか考える。 前歯部人工歯の排列を行う。 矢状切歯路角と水平被蓋、垂直被蓋の関係を理解する。 前方咬合平衡が確保できるような垂直被蓋、水平被蓋について理解する。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫
8	咬合小面の形成法 示説あり	<u>4倍歯石膏模型</u> 上下顎第一大臼歯 4倍歯石膏歯型を使用して、咬合小面を形成する。 選択削合で形成する咬合小面を理解する。 F-3-4)-(3)- 、 、 、 前方咬合平衡、両側性平衡咬合及び片側性テコバランスを考慮した下顎臼歯部人工歯排列について知識を深める。 臼歯部人工歯の類舌の排列位置に関する考え方を学ぶ。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫
9 ) 10	臼歯部人工歯排列 示説あり	<u>人工歯、咬合床</u> 臼歯部人工歯の選択基準、形態について、理解する。 生体から得られた種々の情報より、臼歯部人工歯を排列すべき位置を考える。 臼歯部人工歯の排列を行う。 前方咬合平衡、両側性平衡咬合及び片側性テコバランスを理解する。 前方咬合平衡、両側性平衡咬合が確保できるような調節彎曲について理解する。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫
11	歯肉形成 ろう義歯の試適 示説あり	<u>ろう義歯</u> 人工歯排列が完了した後、パラフィンワックスを用いて歯肉形成を行い、ろう義歯の研磨面形態を整え、義歯床の床翼形態、及び辺縁形態、歯肉形成の術式及びその意義を学習する。 完成したろう義歯をマネキンの口腔内に試適し、顔貌と咬合接触の均等性を点検することにより、ろう義歯試適の意義について学ぶ。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
12	埋没、流ろう、填入 重合、取り出し 示説あり	<u>ろう義歯、フラスク、埋没用石膏、床用レジン</u> 試適の完了したろう義歯を埋没用石膏を用いてフラスク内に埋没する。ろう義歯埋没方法の種類・術式・適応、及びその意義について学習する。 流ろうの完了したフラスクに、餅状レジンを填入し、試圧及び余剰レジンの除去を繰り返した後、温水中で重合を行う。加熱重合レジンの填入方法及び重合様式・術式及びその理論について知識を復習し、適合良好な全部床義歯の重合術式を修得し学習する。 重合の完了した義歯は作業用模型と一体となったままの状態です。フラスクから取り出す。フラスコからの取り出し方法の術式の修得、及びレジンの重合による寸法変化（熱及び重合収縮）について理解する。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫
13	重合が完了した義歯（完成義歯）の咬合器上での咬合調整 取り出し、研磨 示説あり	<u>完成義歯</u> 重合の完了した義歯を咬合器上の模型に適合させ、フルバランスドオクルージョンを念頭にいった咬合調整を行う。 自動削合の意義を理解し、カーボランダム・グリセリン泥により自動削合を行う。 バランスドオクルージョンを理解する。 削合の完了した義歯を作業用模型から取り出し、形態修正を行ったのち順次段階的に研磨を行う。床用レジンの研磨術式、及び研磨の意義について学ぶ。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫
14	完成義歯の口腔内装着 示説あり	<u>完成義歯</u> <u>適合試験材</u> 印象材系の適合試験材による適合試験を行う。 ペースト系の適合試験材による適合試験を行う。 咬頭嵌合位、及び偏心位における咬合調整を行う。 新義歯の装着の進め方を理解する。 顎堤の保全と筋、顎関節との調和を第一義とした全部床義歯について、義歯床形態と咬合関係を中心に考える。また、歯の欠損に伴う咬合・咀嚼障害及び発音障害を有床義歯の装着によって回復又は改善する義歯補綴治療の意義を全身の健康の観点から考える。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫
15	まとめ	一連の診療過程を振り返りながら、重要ポイントの再確認を行う。 E-3-4)-(2)- ~	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治 最上 真琴 伊東 由紀夫

#### 【授業実施形態】

##### 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

有床義歯補綴学（前期）の評価方法

- ・ [ 有床義歯補綴学（前期講義）評価方法 ] 定期試験（100%）
- ・ [ 有床義歯補綴学（前期実習）評価方法 ] 製作物（70%）、実習試験（30%）
- ・ [ 判定法 ] 講義と実習を同等に評価し、60点以上を合格とする。

有床義歯補綴学（前後期）評価方法

- ・ [ 判定法 ] 前期評価と後期評価を同等に評価し、60点以上を合格とする。

#### 【教科書】

「全部床義歯補綴学実習」北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系咬合再建補綴学分野

#### 【参考書】

「無歯顎補綴治療学」細井 紀雄、平井 敏博 ほか 編 医歯薬出版

「コンプリートデンチャーテクニック」細井 紀雄、平井 敏博 ほか 編 医歯薬出版

#### 【学修の準備】

指定した実習書の該当ページを事前に読み、疑問点を整理しておくこと。(30分)

実習開始時に毎回授業の最初に前回までの講義・実習内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。(30分)

#### 【ディプロマ・ポリシーと当該授業科目の関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を全部床義歯補綴学の観点から修得する(専門的実践能力)。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を全部床義歯補綴学の観点から身につける(プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力)。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を全部床義歯補綴学の観点から身につける(自己研鑽力)。

DP4.多職種(保健・医療・福祉)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を全部床義歯補綴学の分野でシミュレーションする(多職種が連携するチーム医療)。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を全部床義歯補綴学の観点から身につける(社会的貢献)。

#### 【実務経験】

越野 寿(歯科医師)、豊下 祥史(歯科医師)、川西 克弥(歯科医師)、菅 悠希(歯科医師)、

高田 紗理(歯科医師)、横関 健治(歯科医師)、最上 真琴(歯科医師)、伊東 由紀夫(歯科医師)

#### 【実務経験を活かした教育内容】

全部床義歯補綴学は、無歯顎者の機能的、形態的回復を通じて、患者の全身の健康の維持や回復に寄与する科目であり、学理にのっとった教育内容と実務経験を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。